

デクセリアルズと株主の皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

Dexerials Talk vol. 1

第4期 中間報告書 2015.4.1 > 2015.9.30

Contents

デクセリアルズについて	01
デクセリアルズの強み	03
事業領域の拡大へ	05
主力製品	07
コーポレート・ガバナンス	09
連結財務ハイライト	10
会社概要・株式の状況・株主メモ	裏表紙

デクセリアルズ 株式会社

証券コード：4980



About Dexerials

デクセリアルズについて

株式上場を次の50年への 出発点として、 より広い領域での 成長を目指します。

会社独立時から未来への想いを 全社員が共有

2015年7月29日、私たちデクセリアルズ株式会社は、東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。新たに当社株式を保有していただいた株主の皆様、そして、これまでの当社の歩みを支えていただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

当社の前身は、1962年にソニーグループの電子材料メーカーとして設立されたソニーケミカル株式会社です。2000年にソニーの完全子会社となった後、2012年に現社名を掲げ、ソニーグループから独立しました。その時から、会社の未来を自らの手で拓いていくという想いを全社員が共有し、持続的成長に向けたステップとして株式上場を目指してきました。

約3年の準備期間を通じて経営基盤を十分に整備し、上場の実現に至ったことで、社員の

士気は高まり、今まで以上に前向きな気持ちで事業の拡大に取り組んでいます。

さらなる企業価値の向上と 社会貢献を目指して

私たちは「高機能材料の分野で高収益を上げる企業」を目標として、常に技術革新に挑戦し、半世紀にわたって機能性材料および電子部品をグローバルに提供してきました。

これからは、株式上場を次の50年への新たな出発点として、エレクトロニクス関連のみならず、より広い領域における成長を追求していく考えです。そして、さらなる企業価値の向上と社会への貢献を果たすべく、今までなかったものを提供していきます。

株主の皆様におかれましては、当社の未来にご期待いただき、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

経営理念

Integrity

誠心誠意・真摯であれ

企業ビジョン

Value Matters

今までなかったものを。
世界の価値になるものを。

経営理念と企業ビジョンに 託した想いを胸に

私たちは「Integrity—誠心誠意・真摯であれ」という言葉を経営理念に掲げました。お客様に対して、また社会に対して、一人ひとりの社員が自分の持てる力を精一杯発揮し、その実績を着実に積み上げていく企業集団でありたい。こうした想いを社会の公器たる企業としての根幹に定めたものです。

そして、各部門の社員が自らの価値を高め、お客様に利益をもたらす価値の提供者として、常に新たな創造にチャレンジしていく姿勢を、

「Value Matters—今までなかったものを。世界の価値になるものを。」という企業ビジョンによって明確化しました。

「Integrity」と「Value Matters」。この2つの言葉に託した想いを胸に、私たちは前進し続けます。

Dexerials

社名の由来

巧みな、機敏なという意味の「Dexterous」と材料を意味する「Materials」という二つのワードを組み合わせた造語で、卓越した技術を持つ当社が、お客様とともに課題を賢く、機敏に解決し、お客様の期待を超える価値を創造するという思いを込めています。

History ▶

経営

製品

1962

ソニーケミカル
株式会社設立

プリント基板用接着剤
付銅箔を作る会社として
誕生

1987

東京証券取引所市場
第二部に上場

独自の先端技術に対する
社会の認識および評価を
高め、多くの株主のご支
援をいただき、株式を上
場

1989

ソニーケミカル オブ
アメリカ設立

1994

ソニーケミカル
蘇州設立

2009

「資源循環技術・システム
表彰 経済産業大臣賞」受賞

塗布工程で有機溶剤を使用
しない紫外線硬化法による
工業用粘着テープの製造を
12年以上続けてきたことが
評価



2012

デクセリアルズ株式
会社に社名変更し、
事業開始



1963

液状接着剤事業へ参入

1965

両面粘着テープ業界へ進出



1977

異方性導電膜(ACF)を
開発



1994

リチウムイオン2次電池
用保護素子(セルフコン
トロールプロテクター)
生産開始



2007

光学弾性樹脂(SVR)
生産開始



2008

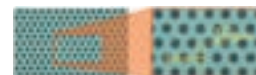
プロジェクター用
無機偏光板生産開始

2010

太陽電池用
タブ線接合材料
生産開始

2014

粒子整列型
異方性導電膜を開発



2015

東京証券取引所市場第一部に
上場

ソニーグループからの独立後、約3
年を経て経営基盤の整備を果たし、
念願の上場を実現。次の50年に向
けたスタートラインに立つ。

最終顧客・直接顧客との強固な協力関係を築き、サプライチェーンの中で製品をスタンダード化。

研究開発の強化により卓越した技術力を確立

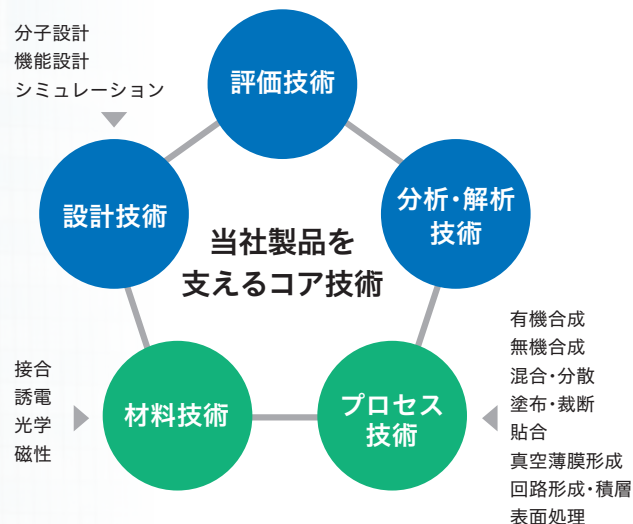
高機能の電子材料・光学材料を中心とする当社のものづくりを支えているのは、材料技術とプロセス技術を柱とする独自のコア技術です。このコア技術を進化させることで、付加価値の高い新製品を連続的に生み出し、他社の追随を許さないポジションを確立してきました。

そこでカギとなるのは、卓越した技術力を育む研究開発であり、当社はその強化に向けて経営資源を積極的に投入しています。

売上高全体に占める新製品[※]の割合は、2015年3月期現在49%という高水準に達しています。また年間の研究開発費に、売上高の7%を継続的に充てています。このような新製品開発への注力が、高収益体質の維持につながっています。

※ 発売後3年以内の改良品を含む新製品

技術力・研究開発力



技術力を顧客対応に活かすビジネスモデル

強みに関するもう一つのカギは、技術力を顧客対応に活かしていくための「スペック・イン」「デザイン・イン」というビジネスモデルです。

当社の直接的な顧客には、部品メーカーやディスプレイメーカー、用語解説 1 EMSといった部品実装を担う企業があります。「スペック・

用語解説

① EMS

Electronics Manufacturing Service = 電子機器の受託生産を行うアウトソーシングサービス

② セットメーカー

自らのブランドをもって最終製品を開発し、消費者に販売する製造業者

イン」とは、直接顧客の生産体制に対する人的サポートや製品プロセスの共同開発など、生産の立ち上げを支援することで、当社製品のスムーズな導入を図るものです。

また、これらの部品実装メーカーは、その先の大手 **用語解説 2 セットメーカー** など最終顧客から部材指定を受けて供給する場合があります。「デザイン・イン」とは、当社の開発部隊が最終顧客のニーズを把握し、最終製品の最適なソリューションを提案することで、当社製品の部材指定につなげていく取り組みです。

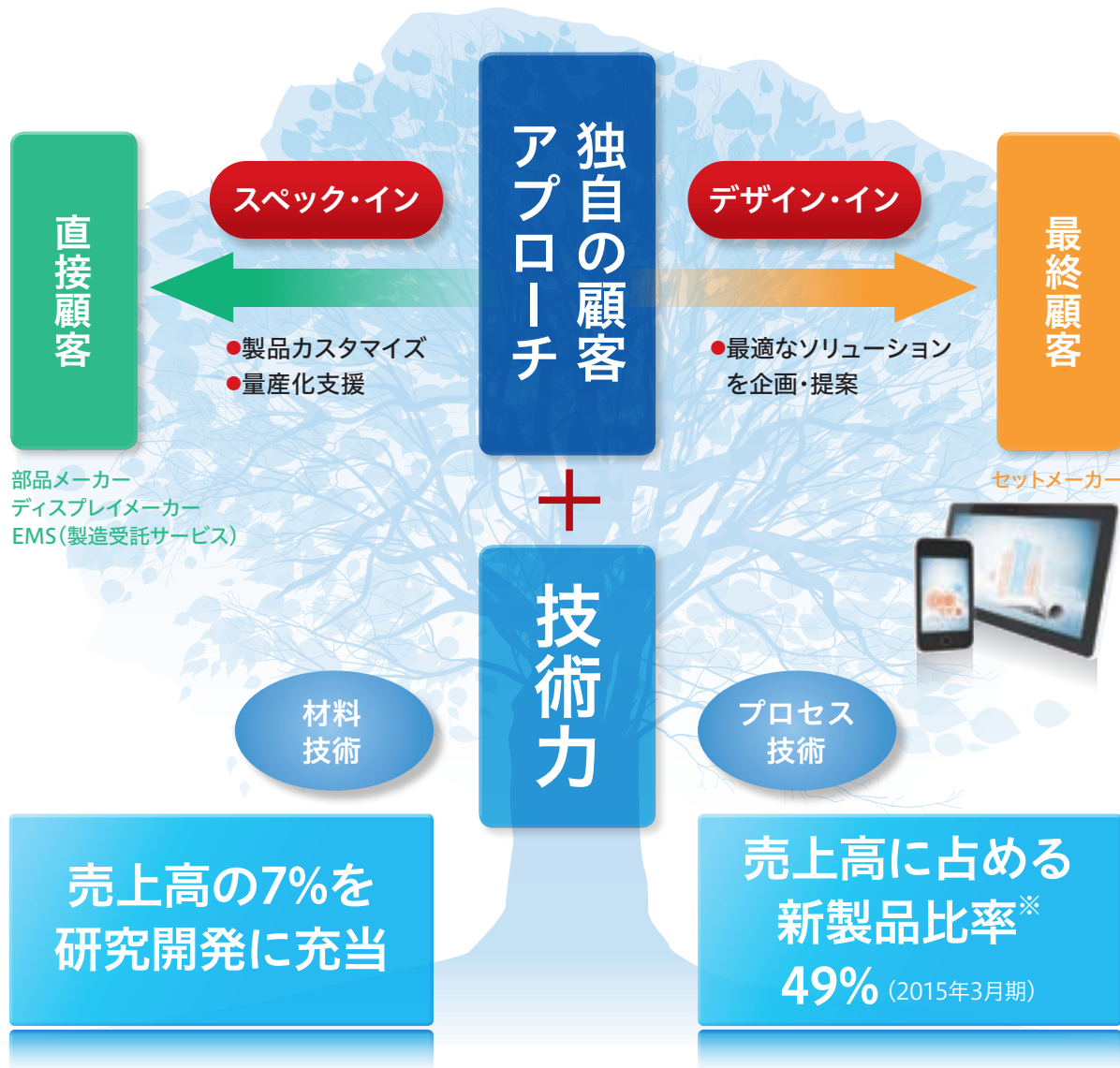
このように、最終顧客および直接顧客と強固な協力関係を築き、「スペック・イン」「デザイン・イン」を通じて、サプライチェーンの中で製品の業界スタンダード化を実現していることが、当社の大きな強みになっています。



Close Up

デクセリアルズの強み

確かな技術力と独自の顧客アプローチで自社製品の業界スタンダード化に取り組んでいます。



Business Field

事業領域の拡大へ

現行製品による成長の幅を拡げながら、 コンシューマーIT機器の枠を超えて新市場を創出。

現在の事業領域と 主力製品群に至る歩み

当社事業の源流は、ソニーが日本初のトランジスタラジオ「TR-55」を製品化するにあたり、プリント基板用接着剤付銅箔が必要となったことに遡ります。その国産化に向けて、1962年に回路用銅箔製品および工業用接着剤製品の製造・販売子会社として設立されたのが、当社前身のソニーケミカルです。

その後の事業は、液状接着剤から両面粘着テープへ展開し、磁気ヘッドやフェライトコアの生産、さらには、電子機器の小型・軽量化に貢献するフレキシブルプリント配線板の生産を開始したことで、エレクトロニクス分野との関わりを拡げていきました。

現在の主力製品群については、1977年に異方性導電膜(ACF)を業界に先駆けて製品化し、1994年にセルフコントロールプロテクター(SCP)を、2007年に光学弾性樹脂(SVR)を製品化しています。いずれも **用語解説 3 コンシューマーIT機器**の進化に不可欠な製品として用途を拡げ、情報家電や情報通信端末などの急速な発展を支えてきました。

ディスプレイの用途拡大を取り込んで成長

主力製品群のうちSVRとACFは、スマートフォンやタブレットPCなどのディスプレイを中心に用いられる機能性材料・電子部品として、当社が高いシェアを保持しています。これらの現行製品については、引き続き高い技術力を駆使し、新製品の開発を進めていきます。

同時に、従来の情報家電・情報通信端末への導入にとどまらず、車載ディスプレイやウェアラブル端末など、ディスプレイの新たなアプリケーションへの用途拡大を進めることで、成長の幅を拡げていく考えです。



当社の製品群

用語 解説

③ コンシューマーIT機器

一般消費者向けに販売される情報家電や情報通信端末などのIT機器

新たな市場創出の課題となる サプライチェーン

今後の事業展開として、私たちはコンシューマーIT機器分野の枠を超え、既存領域で培ったノウハウを活かして世の中が求める機能性材料や電子部品を生み出し、これまでなかった価値を提供することで、新領域における市場創出を目指します。具体的には、自動車分野の「車載ディスプレイ材料」、通信・半導体分野の「ICチップ用熱伝導シート」、ライフサイエンス分野の「用語解説 4 医療用アイシールド」、環境分野の「用語解説 5 熱線再帰フィルム」など、既にいくつかの取り組みを開始しています。

こうした新領域において、従来同様に「スペック・イン」「デザイン・イン」を通じたサプライチェーンを構築することは、一朝一夕にはできません。そのため、必要な場合にはM&Aやアライアンスによる技術強化および連携強化も視野に入れ、新たな市場創出にスピード感を持ってチャレンジしていきます。

なお、当社の中長期的な成長目標については、2017年3月期を初年度とする中期経営計画を2016年4月以降に発表する予定です。

用語解説

④ 医療用アイシールド

低反射に優れた光学フィルムで医療従事者の目を覆い、視認性を確保する保護シート

⑤ 熱線再帰フィルム

窓ガラスに貼ることで、太陽からの熱線を上方へはね返し、室内だけでなく建物周辺の熱環境を改善するフィルム

Close Up

今後のビジネス展開

既存領域で培ったノウハウを活かして、新領域における市場を創出



Main Products

主力製品

ものづくりによる価値創出に取り組みつつ、 環境・社会と共生する企業経営を実践。

デバイスの進化を支える 多種多様な製品群

当社の製品群は、異方性導電膜(ACF)や接合関連材料などを主とする「電子材料部品」と、光学弾性樹脂(SVR)や反射防止フィルムなどの「光学材料部品」の2つに区分されます。

電子材料部品は、狭小スペースでの用語解説 6 **ファインピッチ** 接続を可能とするACFに見るように、スマートフォンなどモバイル機器の高精細化・薄型化に大きく貢献しています。光学材料部品は、ディスプレイの視認性や耐衝撃性を向上させており、これも情報通信機器の進化に寄与した立役者と言える製品群です。

環境経営の実践と 継続的改善

私たちは、グループの環境理念および基本方針を定め、サステナビリティと資源循環の視点に立った環境経営の推進に取り組んでいます。ISO14001に基づく環境マネジメント体制を構築しており、事業現場での環境に配慮した改善活動と環境パフォーマンスの効率化を通して、環境負荷の低減に努めています。ハロゲンフリー製品や熱線再帰フィルムなどの環境配慮型製品の開発と提供にも継続的に注力しています。

また、化学物質を扱うメーカーとして、用語解説 7 **PRTR法** や 用語解説 8 **REACH規則** への対応などグローバルレベルで法令を順守すると同時に、化学物質の適正管理と排出量削減に努めています。

これからも、人間社会と地球環境の豊かさと質の向上に貢献し、地域社会と共生する企業として、環境経営の継続的改善を重ねていきます。

用語 解説

⑥ ファインピッチ

プリント配線板の導体パターンやリードの間隔が非常に狭い配線のこと

⑦ PRTR法

Pollutant Release and Transfer Register = 化学物質排出移動量届出制度。日本では1999年に法制化

⑧ REACH規則

2007年に施行された欧州連合における化学品の登録(Registration)/評価(Evaluation)/認可(Authorisation)/制限(Restriction)に関わる規則

Close Up

デクセリアルズの事業構造

電子材料部品事業

接合関連材料
カテゴリー



熱伝導シート

異方性導電膜
カテゴリー



ACF

リチウムイオン電池
2次保護素子
カテゴリー



SCP

マイクロデバイス
カテゴリー



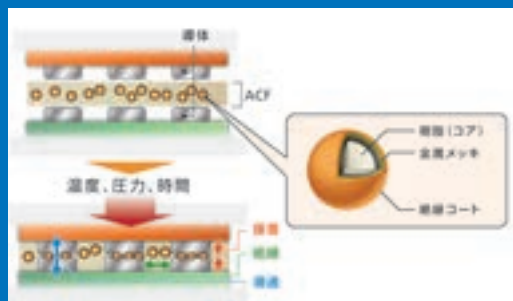
無機偏光板

主力製品

異方性導電膜 (ACF)

業界に先駆けて当社が1977年に製品化し、現在ではさまざまなタイプのディスプレイパネル製品に、ほぼすべて使用される不可欠な材料となっています。接着フィルムの中に導電粒子が入っており【下図】、ディスプレイとICドライバーの間に挟んで加熱圧着して、導電と絶縁、接着を同時に行う、信頼性の高い接合材料です。ディスプレイパネル以外にカメラモジュール用途にも使われています。

ACFの構造



光学材料部品事業

光学フィルム
カテゴリー



反射防止フィルム

光学樹脂材料
カテゴリー



SVR

光学ソリューション
カテゴリー



▶ 当社製品を用いた
パネル貼り合わせ
の請負など

主力製品

光学弾性樹脂 (SVR)

ディスプレイとカバーガラスなどの間に弾性を持った高透過率の樹脂を充填することで、太陽光の下でも視認性を上げ、薄型化に貢献する光学材料です。

光学弾性樹脂 (SVR) の機能



Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス

当社は「Integrity—誠心誠意・真摯であれ」という経営理念のもと、企業活動を支えている全てのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの確立が極めて重要な課題であると考えています。

この基本的な考え方に基づき、取締役会の構成として、独立社外取締役^{*}を過半数とする体制を導入することにより、経営の透明性・客観性の確保に努めています。



野澤 昭

安藤 尚

一ノ瀬 隆

高松 和子

平野 正雄

藤田 浩司

横倉 隆

取締役(社内)

代表取締役社長 一ノ瀬 隆

当社の前身であるソニーケミカル&インフォメーションデバイス(株)の代表取締役社長を経て、当社の成長と企業価値の最大化に向けた経営に努めています。

取締役 **上席執行役員** 安藤 尚

製品開発を統括する上席執行役員として、ソニーケミカル(株)で長年にわたり培ってきた経験と知見を発揮し、主力製品の開発を牽引しています。

取締役(社外)

平野 正雄

兼任状況 ●早稲田大学商学大学院 教授
●株式会社ブロードリーフ 社外取締役

大学教授ならびに経営コンサルタントとしての企業経営に関する豊富な経験および高い見識から、当社の経営全般に対してご助力を頂いています。

藤田 浩司

兼任状況 ●奥野総合法律事務所・外国法共同事業 副所長(弁護士)
●トレンドマイクロ株式会社 社外監査役
●ニチレキ株式会社 社外取締役

弁護士としての企業法務に関する豊富な経験および高い見識から、当社のコーポレート・ガバナンス体制の強化にご助力頂いています。

横倉 隆

兼任状況 ●東京理科大学 理事

上場企業における経営者として要職を歴任されており、その豊富な経験および高い見識から当社の技術開発および事業展開の強化にご助力頂いています。

高松 和子

兼任状況 ●公益財団法人 21世紀職業財団 理事・事務局長
●日立造船株式会社 社外取締役

上場企業における環境保全活動およびダイバーシティ推進活動の責任者としての豊富な経験および高い見識から、当社のCSR活動およびダイバーシティ経営の推進にご助力頂いています。

取締役 **上席執行役員** 野澤 昭

財務・経理分野における豊富な経験と高い見識を発揮し、上席執行役員を務め、また、CFO(最高財務責任者)として財務経理部門を統括しています。

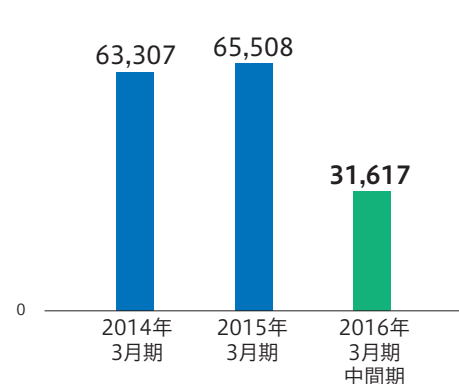
※当社は、社外取締役全員を、東京証券取引所が定める一般株主と利益相反関係が生じるおそれがない独立役員として指定し、同取引所に届け出しています。

Consolidated Financial Highlights

連結財務ハイライト

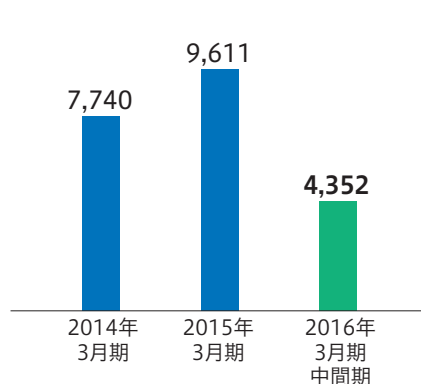
売上高 (百万円)

■ 中間 ■ 期末



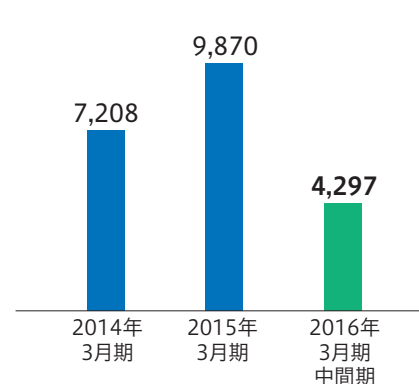
営業利益 (百万円)

■ 中間 ■ 期末



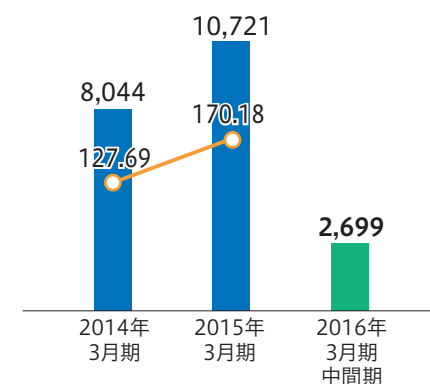
経常利益 (百万円)

■ 中間 ■ 期末



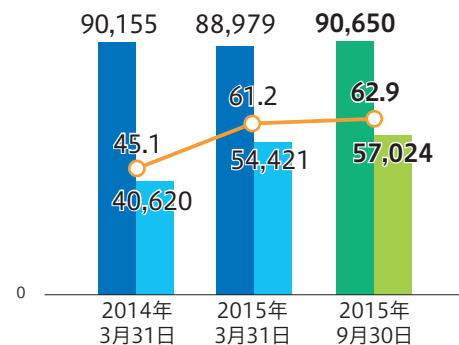
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) EPS (円)

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ■ 中間 ■ 期末 ○ EPS



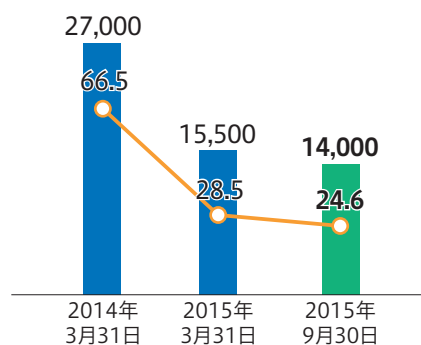
総資産 (百万円) 純資産 (百万円) 自己資本比率 (%)

■ 総資産 ■ 純資産 ○ 自己資本比率

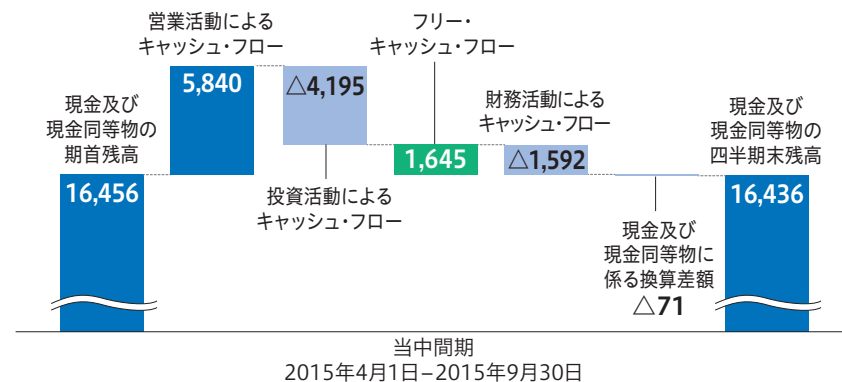


有利子負債 (百万円) D/Eレシオ (%)

■ 有利子負債 ○ D/Eレシオ



キャッシュ・フロー (百万円)



▶ より詳細なデータについては当社サイト「IR情報」ページをご参照ください。

WEB

<http://www.dexerials.jp/ir/>

デクセリアルズ

IR

検索

Information

会社概要／株式の状況 (2015年9月30日現在)

会社概要

商 号 デクセリアルズ株式会社
(英文名:Dexerials Corporation)
設 立 2012年6月20日
資 本 金 15,747百万円
本社所在地 東京都品川区大崎一丁目11番2号
従 業 員 数 2,366名(連結)(2015年3月31日時点)

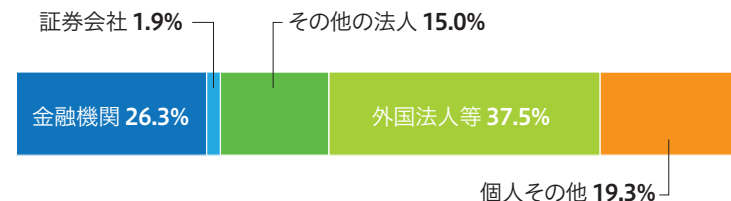
株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
発行済株式の総数 63,000,000株
株主数 19,619名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社日本政策投資銀行	5,525,900	8.77
積水化学工業株式会社	5,040,000	8.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,385,200	5.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,135,400	4.97
大日本印刷株式会社	3,125,000	4.96
BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND	3,111,500	4.93
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,881,900	2.98
UC UNIVERSE (F), L.P.	1,505,000	2.38
MSIP CLIENT SECURITIES	1,244,000	1.97
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	1,215,300	1.92

所有者別株式分布状況



デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
TEL (03)5435-3941

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 期末配当金受領株主確定日 3月31日
- 中間配当金受領株主確定日 9月30日
- 1単元の株式数 100株
- 証券コード 4980
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 連絡先・郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-232-711(通話料無料)
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 手続きに関するご案内 住所・氏名の変更、单元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定などの手続きは、口座を開設されている証券会社へご連絡ください。
相続などによる株式所有者の変更は、株主名簿管理人および口座をお持ちの証券会社にご連絡ください。
- 公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.dexerials.jp>

株式に関する手続きのご案内

- お取扱窓口 支払明細の発行、未払配当金のお支払い等については、以下の連絡先にお問い合わせください。
- お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-232-711(通話料無料)
(土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)
上記電話番号をご利用いただけない場合
03-6701-5000(通話料有料)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油
インキを使用しています。